



夏から秋へ

「秋の野に咲きたる花を指折
り かき数ふれば七種の花」

(山上憶良)

憶良は、「秋の野に咲いてい
る花を指折り数えてみると、
七種類の花があります」と詠
っています。

残暑の続く中、各地からハ
ギやススキ、オミナエシなど
の便りが届くころです。7月
ごろから咲いているキキョウ
は別格としても、晩夏から秋
への移ろいを刻々と映し出す
のが秋の七草です。秋の花は
どこかに陰を宿しているよう
です。

ワレモコウの暗赤色はもと
より、キキョウの青、オミナ
エシの黄、ヒガンバナの真紅
でさえ、花のにぎわいは内に
秘めて、涼しくひそやかな姿
を醸し出しています。

百花繚乱で浮き立つような
春の野ではなく、切なく花が
揺れる秋の野を、古来、日本
では「花野」と呼んでいます。

先人が積み上げてきた日本の
季節感は、驚くほど繊細で深
く心に残ります。

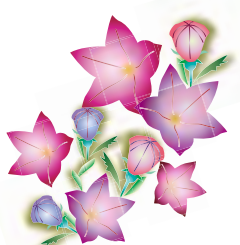
桜に象徴される、春の野は
成長と繁栄の宴となります。
花に身を委ね、浮かれて酔い
しれる一方で、春憂という言葉
葉にもあるように花の盛りに
物思いにふける季節でもあります。

春と比べて夏の暑さや光も
送り出す寂しげな秋の野に、
去りゆくものの華やぎを見よ
うとする時もあります。

秋の花野を彩る花の数は、
決して少なくありません。
「秋の野に乱れて咲ける花の
色の千種にものを思うころか
な」(紀貫之)。

春の七草に比べて、花をめ
でる秋の七草の方が充実感ほ
あるように感じます。山上憶
良は秋の七草をこども詠んで
います。

「萩の花／尾花／葛花／なで
しこの花／女郎花／また藤



袴／朝顔の花」ここでいう朝
顔とはキキョウのことです。
お彼岸の頃に咲くヒガンバ
ナは「曼珠沙華」とか「天上の
花」とも呼ばれています。

また、韓国では、葉のある
ときには花はなく、花のとき
には葉がないことから
花は葉を思い、葉は花を思
う：「相思華」と呼ばれてい
るそうです。

黄金色に実った稲穂。傍ら
に咲く真紅のヒガンバナ…。
美しい日本の里山が、実りの
秋を迎えています。最近、身
近な野には外来植物が多くな
りましたが、秋の七草にどれ
だけ出会えるか、野山の散策
に出掛けたいものです。



指宿市長
豊留悦男